

インターロッキングブロック舗装 Technical Report － 施工編 － (その22)

Vol.54

1. 視覚障害者誘導用ブロックの施工方法

視覚障害者誘導用ブロックの施工方法について以下に示します。

誘導用ブロックの施工についての注意点

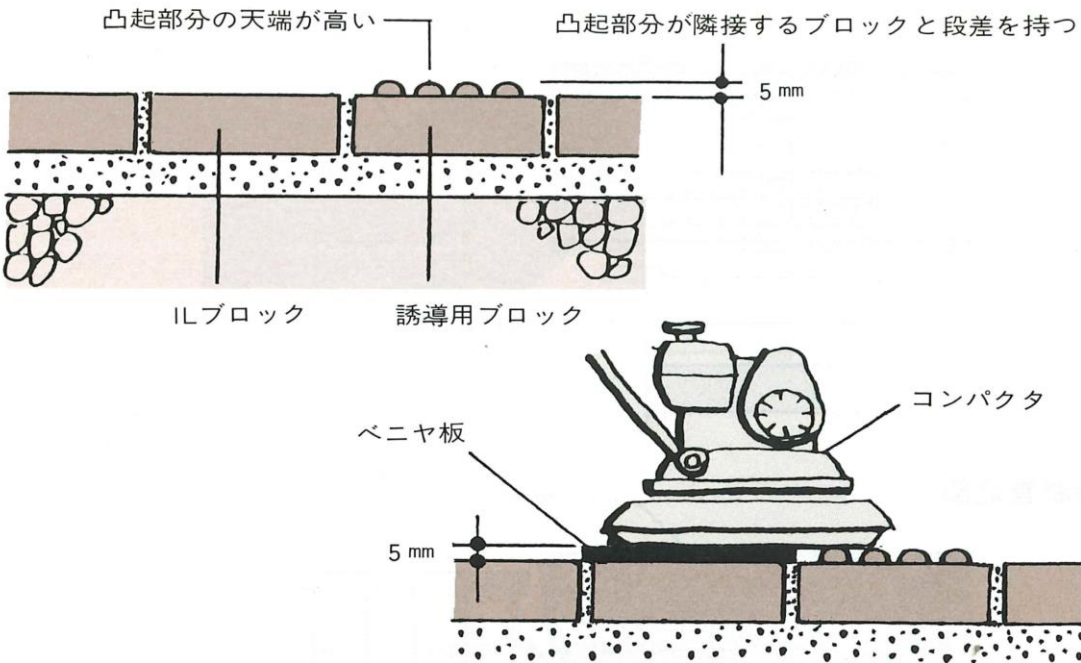
- (1) 誘導用ブロックと隣接する普通ブロックとの目地幅は、できるだけ開かないように納めます。
- (2) 誘導用ブロックの突起部分と隣接する普通ブロックの高さは、同一レベルではありません。
(白杖で判別しやすいように)
- (3) 誘導用ブロックの配列方法
 - ① 各自治体の指導に従います。
 - ② 視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説（社団法人日本道路協会）に準じます。

◆用意するもの：メジャー、コンベックス、水準器、ベニヤ板、割付図

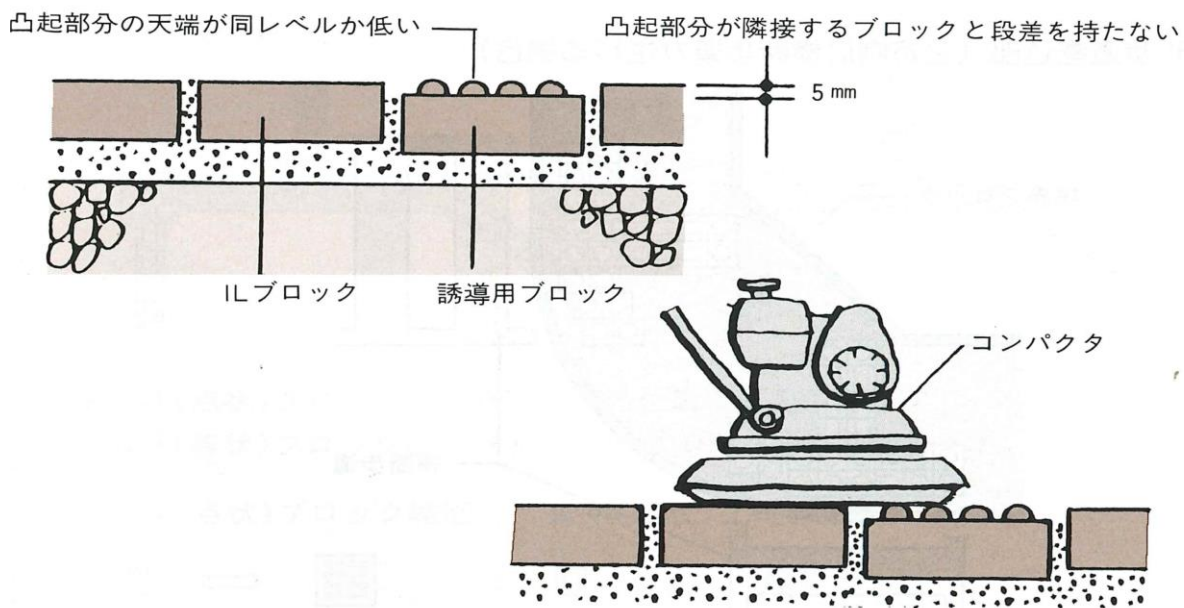


▲白杖で判別しやすい誘導用ブロック。

良い納まり例

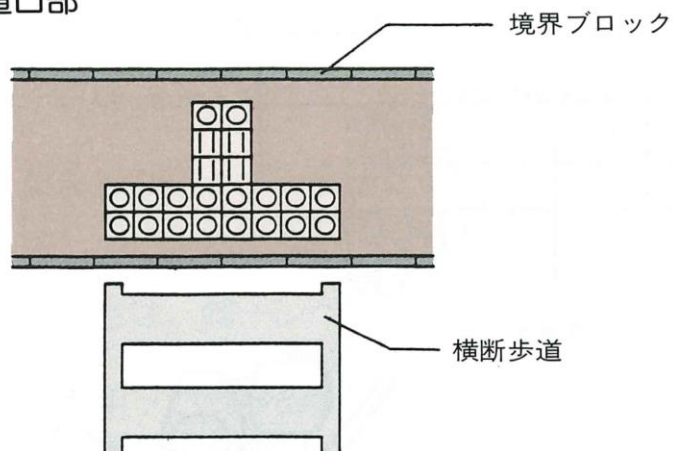


悪い納まり例

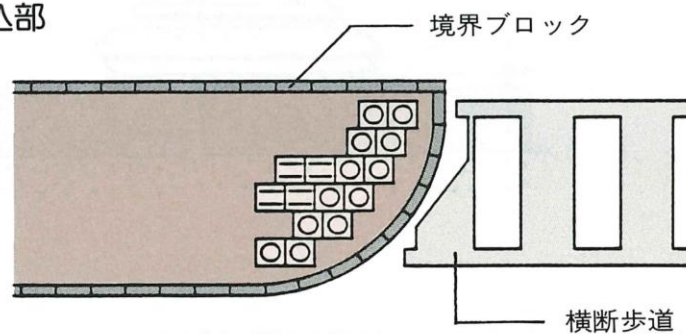


誘導用ブロックの設置例

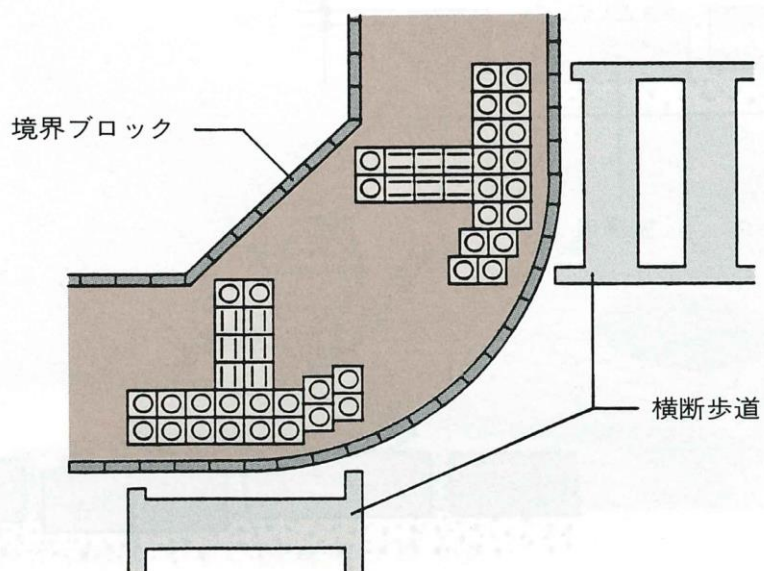
(1) 横断歩道口部



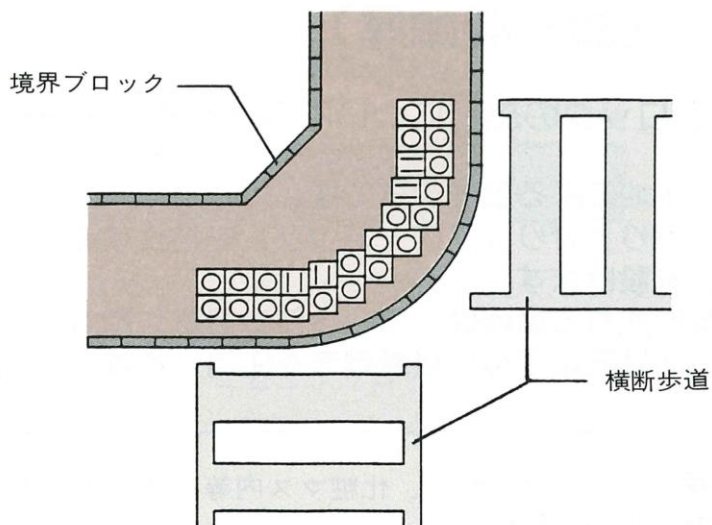
(2) 歩道巻込部



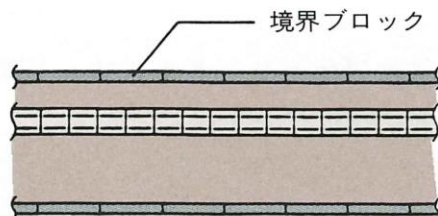
(3) 歩道巻込部（2方向に横断歩道が生じる場合）



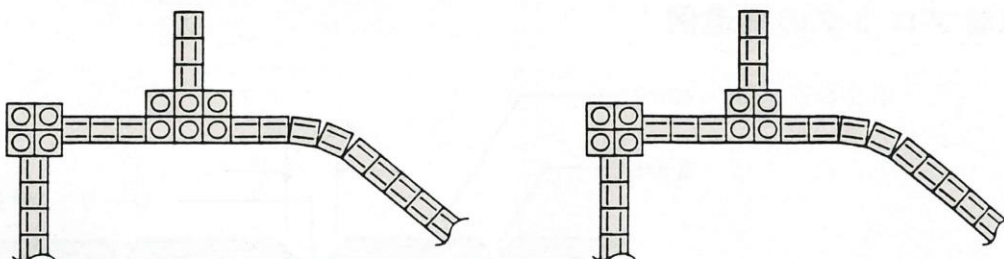
(4) 歩道巻込部 (2方向の横断歩道が近接している場合)



(5) 直線部



(6) 屈折部・屈曲部

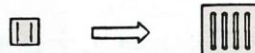
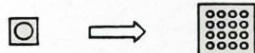


※点字(点状)ブロックは、横断歩道の位置などを示します。

※線字(線状)ブロックは、横断歩道上の歩行方向へ誘導します。

点字(点状)ブロック略図

線字(線状)ブロック略図



以上